



「一人息子が寄宿舎に入舎してみても…」

～ある親子(母と息子)のお話し～

～卒業した親子のお話です～

私の息子は中学までの学校生活に特に問題があったわけではなく、逆に上手くいっていた学校生活でしたが、ふと息子の将来を考えた時に、社会の中でもっといろいろな経験をする必要があると思い、「息子にとってより良い経験のできる学校はないか」と色々な学校のHPを検索し、息子の為になる学校を探しました。そして、寄宿舎のある沖縄高等特別支援にたどり着きました。

寄宿舎のある学校ならば、集団の中、色々な個性の中で揉まれることで、彼の更なる成長が見れるのではないかと思い、息子と何回も話し合いを重ねた結果、寄宿舎のある沖縄高等特別支援学校を見学することになりました。そのうえで、本人から「僕はここで頑張りたい」と話があり、親子で沖縄高等特別支援学校への進学を決めました。

★「一人息子が寄宿舎に入舎してみても…」

母より ～失敗してもいいよ～



今まではいろいろなところでサポートしてきたけれど、高校を卒業したら社会人にならなくてはいけないし、出来る事なら色々な選択肢から選ばせてやりたいけど難しい。

ならば少しでも出来ることを増やしてほしい、「頑張ってみない？」と息子とたくさん話をして見学して寄宿舎のある学校に決めました。

「一人で準備してルールも守って頑張るのだから失敗しても構わないよ、先生から怒られたら、お母さんも一緒に謝ってあげるから」とかなり緊張した息子を送りだしました。

初日の布団は寂しかったらしく、翌朝トイレに一人で行ったら涙があふれたそうで、涙が乾くまで部屋に戻れなかったそうです。

“頑張ろう”の気持ちが折れそうになったけれど、夕方の在舎中に先生が車好きの先輩を紹介してくれたそうで一気に頑張れるかもと思えたそうです。

舎の先生方は部屋担当の枠にとらわれず、生徒全体の情報共有をしっかりと取ってくださっています。連絡帳で子供の状況もお伝えしあいながら、家庭と学校、寄宿舎の三面から社会性を見守っていただけます。

息子はこの4月から就労しています。緊張しながらですが背伸びせずに通えています。寄宿舎3年間の経験が生かされていると感じています。

以上：卒業生の母より

～3年間の寄宿舎生活の良いところ～

～卒業生本人より～

- ①寄宿舎のご飯が美味しい
- ②日課をやりながら色んな人と話し合える
- ③テレビやゲームがあって楽しい
- ④ルールや日課を少しずつ頑張るととても良いことがある。
- ⑤淋しいときや困った時は先生が優しくそばについてくれる。
- ⑥希望在舎日では普段は味わえないイベントがある。
- ⑦運転免許の学習が受けられる。
- ⑧寄宿舎では自由時間があって楽しい。
- ⑨自分で部活（サークル）を立ち上げることが出来る。
- ⑩3年間寄宿舎生活を頑張れば社会自立につながる。



＜母親との話の中から＞

息子の成長として・・・

① “選択肢ができた”

個性豊かな生徒の中で、自分の立ち位置を考えながら、自分で“これ！”と思うことを選択する力を培えた。

② “優先順位を付けられるようになった”

寄宿舎の限られた時間の中で自分のやるべきことを考え、その中で自分の楽しみを得ていくことで、行動の優先順位がつけられるようになった。

③ 集団の中で共有して得られるもの”

通学ではなく、生活・時間を共有することで得られ友情や楽しみが生活に潤いをもたらせた。

④ 人とのいい感じの距離感

個性あふれる集団の中で、自分の事を苦手と思っている人との距離感の取り方を学べたことが、今の職場で活かしているのではないかな。

⑤ 自信があるから謝ることが出来る。

自分自身の事を理解できたからこそ、自分の課題を理解し謝罪が出来る。

★小人数ではなく、集団の中で異年齢と関わることで、人との接し方、相手の立場、状況を見ての関わり方をすることが出来てきた。

★好きな事を認めてもらえた充実感（サークル活動等）

★嫌なこともあったが、切り替えることが出来た。